

私と京都



ヒバナ
株式会社 Hibana 代表取締役
松田 直子

「京町家から発信したい 京都の森を元気にする取組」

京都の暮らしや伝統文化に魅せられて、下京区の京町家に憧れて住み始めて7年になります。京町家は決して過ごしやすくないのですが、木に囲まれていると、なぜだか心が落ち着きます。すきま風だらけのわが家ですが、寒くなってくると、カラッコロ、コロカラッ、冬の恒例、可愛らしい音がします。この音の正体は、「木質ペレット」(※1)という木の燃料が転がり落ちる音です。今は、木質ペレットを燃料にした木質ペレットストーブで暖をとって、冬を楽しんでいます。

以前は、日によっては家の中は外よりも寒く、石油ストーブでは頭がのぼせるため、点けたり消したりを繰り返していたのですが、その問題も解消されました。火が点いてしばらくたつと、今度は部屋

が木の香りでいっぱいになります。音と香り、そして小窓から見える大きな炎で、疲れている時も癒されます。

さて、わが家にペレットストーブが来たのは4年前。ストーブを置いている1階は本当によく暖まります。暖まるまでに少し時間がかかるのが難点ですが、輻射熱でじんわりと体が暖まり、冷えに悩まされることもなくなりました。なにぶん古い家なので、安全性やメンテナンスの安心感などから国産のストーブを選び、玄関入ってすぐの畳の部屋に設置しています。ストーブが80kgと重たいので、少し床を補強する工事を行いました。簡単に設置できました。煙突は不要で、吸排気は窓かエアコンのダクト穴を利用するか壁に穴を開けるかのどちらかで行います。スイッチひとつで温度調節やタイマーセットもでき、とても簡単に使うことができます。炎の上の部分はオープンになっていて、簡単な調理もでき、餅や魚を焼き、料理をしています。



この木質ペレットストーブ、なんと!この11月から京都市で家庭用の購入助成(※2)が始まりました。購入費用(設置工事費込み・税抜き)の3分の1、上限20万円までが補助されるので、今から購入される方にはとても嬉しいお知らせです。太陽光発電や生ごみコンポストの助成と同様に、エコな製品です。京都市では右

京区京北地域にペレット工場を建設中で、市内の間伐材から生産される木質ペレットを利用することは京都の森を元気にすることにつながります。私は学生時代に熱帯林問題の活動に関わる中で、日本の林業や森林に関心を持ちました。その後、仲間とNPO 薪く炭く KYOTO で、森林バイオマス(森林資源の利活用)に関わる活動を始め、今は上京区の改修した京町家を拠点に森林バイオマスに関する事業やお店をしています。京都の森を元気にする取組をこの京町家から発信していきたいと思っています。いろいろなバイオマスグッズをそろえているので、どうぞお気軽に遊びに来てください。



株式会社 Hibana
所在地：京都市上京区下立売通大宮西入
TEL：075-803-6277
受付時間9:00～18:00(祝祭日お休み)
<http://www.hibana.co.jp/>

- ※1 間伐材などを直径6～10mm、長さ5～25mmに圧縮して固めた木質燃料
- ※2 京都市の木質ペレットストーブ購入助成について今年度の申請期間は11月30日に終了していますが、詳細については京都市産業観光局農林振興室林業振興課までお問い合わせください。
TEL：075-222-3346

連載コラム 第3回 つれづれ ふっきーの徒然なるままに

自然との共生—日本と木の文化—

日本が木の文化を育ててきた背景には、日本という国の風土がある。現代においても日本の国土はその65%から70%が緑豊かな山林であり、その山間の源泉を出でた清らかな水は、山間部を縫いやがて滔々とした流れとなって四方の海に流れ込む。正に日本は、自然の潤いのある豊かな恩恵を享受してきた国である。

この日本と木の関わりについては、古く神話の時代に遡る。神話の一書によれば、ササノオの子が天降るときに、樹木の種をたくさん持っていたが、これを日本全国に播き、青々とした国土を造成したのだと言う。

神話は、日本の成り立ちを神秘化するための創作と言われていたところもあるが、何らかの歴史的事実を神話に置き換えて、

事物、事象の信憑性をあいまいにしようとしたものであるという説もある。ともあれ、私達の祖先は、類稀なる自然の美しさとその恩恵の下に歴史を積み重ね、優れた伝統と文化を育ててきたことには間違いない。

さて、木の文化の重要なところは、木が生物材料であるということにある。

一定の年数に達した樹木を伐採し活用する代わりに、そのお返しとして植林し次代の樹木を育てていく。この、伐採・再生の循環を自然界の摂理の下に風土を変えることなく行うことによって、自然の産物を継続的に利用させてもらえるのである。

更に言えば、この伐採・再生が繰り返されることこそが、地球環境の安定に寄与することになると言えるのである。

よく山の緑を残せと言われる。樹木が炭酸同化作用によって二酸化炭素を吸収することを受けての意見であろう。しかし、樹木の炭酸同化作用は、その成長期にこそ活発なのであって、一定成長すると二酸化炭素の吸収量は少なくなってくるのである。

ここに、健全な林業の振興と、木の文化の継承の仕組を確立する意義があるのである。



へへ、オレ様はシロアリ殺殺だ。大好物は溜った木さ。
この溜はおいしいそうなんだらけだ。静かにも、食べまくれへへへ。

次号につづく・・・